

資料①：第 3 回会議の議事録

平成 28 年 2 月

南城市

1.10月～11月の運行状況、利用状況の報告について

委員	事務局
向陽高校は0校時を実施しているか。	7:30から実施している。
平均乗車人員を整理しているが、車両の小型化検討の参考とするため、次回からでよいので最大乗車人数も記載してほしい。	次回から、ご指摘のように対応する。(今回の資料には1便あたりの平均乗車人員の記載はなし)

2.南城市生活交通確保維持改善計画(案)について

委員	事務局
計画案の目的は「おでかけなんじい」の財源を確保するためのものか。また、バスの再編は視野に入れているのか？	<p>継続運行を図るための手段の一つとして、計画を策定している。計画を策定することで、数値目標を明確にし、運行状況をチェックすることもできる。</p> <p>平成30年代前半の南部東道路供用、公共駐車場整備等を見据え、平成28年度以降、バス路線の再編に向けた考え方を整理する予定である。</p>
将来的にバス路線も再編していくという理解でよいか。	南部東道路の供用により、人、車の流れが大きく変わることから、そのための準備を進めたい。
年間3,000万円の財政負担が生じていることを考えると、2.5人/便は少ないのでは？	南城市の地形、迂回が必要な道路ネットワークを考えると、大勢の人数を乗せて効率的に運行するのは困難である。今後はコンパクトカーの導入による効率化も図りたい。
運行予定便数の20%という国の補助金の足切りラインと減便、運行取り止めは合わせて検討するのか？	現在は、運行効率の面から減便等を検討している。国の足切りラインの考慮については、今後検討していきたい。
パブリックコメントの資料をもっと簡略化し、利用者の意見を聞く必要がある。自治会へのヒアリングなどで、説明のプロセスを入れながら進めた方がよい。	減便については、利用者座談会の参加者等への意見聴取を検討する。(→利用者アンケートを実施、資料③参照)
回数券20枚は多く、一度に5,000円の出費は負担が大きいと思う。観光客向けに1日周遊券もあるとよい。	OKICA導入前の路線バスの回数券は50枚綴りであり、その半分以下なので多くはないと考えているが、利用者の意見を聞いて再検討していきたい。観光客の周遊券は、次年度の課題として考えている。(資料③P6、資料④P2参照)

委員	事務局
減便、運行取り止めの基準は、1台あたりの利用者数がわかりやすいと思う。	1台あたりの表現に見直す。(資料④P4参照)
<p>向陽高校の生徒でも、割引率は一般の回数券利用者と同じ17%なのか。路線バスの学生向けの回数券は25%割引であったが、参考にしてはどうか。</p> <p>乗務員による回数券販売は、負担軽減も考慮して、極力控えた方がよい。学校で委託販売する方法もある。</p>	<p>県外の事例では、市外に出ると追加料金をとるところもあるが、市外の向陽高校でも一律300円の料金設定をしており、割引の上乗せは考えていない。販売方法については参考にしたい。</p>
<p>利用促進のため、糸満市の空港までの直行バス「いとちゃんバス」との連携を考えてみてはどうか。</p>	<p>バス事業者等と意見交換を行いながら、検討していきたい。</p>
<p>中学生などに交通授業を行い、市内のバスの運行状況や、「おでかけなんじい」の運行経費等を説明し、生徒から意見を吸い上げてみてはどうか。</p>	<p>今年度は準備が間に合わないが、検討していきたい。現在、向陽高校の校長先生が、市内の各中学校を回り、「おでかけなんじい」で登下校ができることをPRしている。</p>